

DMZ国際ドキュメンタリー映画祭2021
グランプリ
ホワイトグース賞

ソウル独立映画祭2021
実行委員会 特別賞

山形国際ドキュメンタリー映画祭2021
インターナショナル・コンペティション部門



ついに母が教えてくれた
おいしいスープのレシピと
「済州4・3事件」の実体験

『ディア・ピョンヤン』『かぞくのくに』
ヤン ヨンヒ 待望の最新作

スープ。と *Soup and Ideology* イデオロギー

監督・脚本・ナレーション：ヤン ヨンヒ

撮影監督：加藤孝信 編集・プロデューサー：ベクホ・ジェイジェイ 音楽監督：チョ・ヨンウク アニメーション原画：こしだミカ
アニメーション衣装デザイン：美馬佐安子 エグゼクティブ・プロデューサー：荒井カオル 製作：PLACE TO BE 共同制作：navi on air

配給：東風 韓国・日本 | 2021 | 日本語・韓国語 | カラー | DCP | 118分 © PLACE TO BE, Yang Yonghi

soupandideology.jp

ヨンヒ、あとは頼んだで。



『ディア・ピョンヤン』『かぞくのくに』、そして本作。ヤン監督による三作品を束ねる圧倒的な強度。むきだしの母の生の姿を追い、やがて現れる家族の真実に心臓を射貫かれる。

平松洋子——作家、エッセイスト

「私たち」のすぐ隣に住み、「私たち」とは違うものを信じて生きている「あの人たち」。彼らがなぜそのように生きているのか、なぜ「私たち」には理解できないものを信じようとしたのか。監督でもある娘が撮影を通して母を理解していくように、この作品を観終わるとほんの少し「あの人たち」と「私たち」の間に引かれた線は、細く、薄くなる。

是枝裕和——映画監督



ひとりの女性の生き様をとおして
国家の残酷さと運命に抗う愛の力を
唯一無二の筆致で描きだす

年老いた母が、娘のヨンヒにはじめて打ち明けた壮絶な体験

——1948年、当時18歳の母は韓国現代史最大のタブーといわれる「済州4・3事件」の渦中にいた。

朝鮮総連の熱心な活動家だった両親は、「帰国事業」で3人の兄たちを北朝鮮へ送った。父が他界したあとも、地上の樂園ににいるはずの息子たちに借金をしてまで仕送りを続ける母を、ヨンヒは心の中で責めてきた。心の奥底にしまっていた記憶を語った母は、アルツハイマー病を患う。消えゆく記憶を掬いとうと、ヨンヒは母を済州島に連れていくことを決意する。それは、本当の母を知る旅のはじまりだった。

これまで私は自身の家族と北朝鮮との関係を描いてきたが、今作で初めて韓国との関係に焦点をあてた。

タイトルには、思想や価値観が違っても一緒にご飯を食べよう、殺し合わず共に生きようという思いを込めた。

——ヤンヨンヒ

監督は『ディア・ピョンヤン』『かぞくのくに』など、朝鮮半島と日本の悲劇的な歴史のうねりを生きる在日コリアン家族の肖像を親密なタッチで写し続けてきたヤンヨンヒ。音楽監督を務めたのは『お嬢さん』『タクシードライバー』約束は海を越えて『など、名だたる作品を生み出してきたチョ・ヨンウク。

なぜ父と母は、頑なに「北」を信じ続けてきたのか？ ついに明かされる母の秘密。あたらしい家族の存在……。これまで多くの映画ファンを魅了してきた、あの〈家族の物語〉が、まったくあらたな様相をおびて浮かび上がる。

Soup and Ideology

@soupandideology f fb.com/soupandideology soupandideology.jp



6月11日(土)より 全国順次公開

全国共通特別鑑賞券¥1,300発売中